

知ってほしい 養育家庭のこと

養育家庭は、さまざまな理由で親と一緒に暮らすことができない子どもを、養子縁組を目的とせず、一定期間養育する家庭です。

関子ども家庭支援センター ☎5722-6836、☎5722-9684

インタビュー 里親子の暮らし

2人の実子(当時高校生と中学生)を持ちつつ、2人の里子(当時小学生)を受託されたご夫婦と実子2人に伺いました。



里父



里母



実子(長女)



実子(長男)

里親になろうと思ったきっかけは

関係者との交流を経て

里父 当時、知り合いのかたから里子を育てているという話を聞き、里子との生活の様子を知る機会がありました。

里母 その後、養護施設の施設長などとの交流を経て、夫に「うちもやろうよ」と話を持ちかけました。

お子さん(実子)に里親について説明した時はどんな反応でしたか

里父 最初はいい意味で受け止めてくれましたが、わだかまりもいろいろありました。

里母 特に2人目の里子が来た時は、受験と重なり思っていた以上に大変でした。「あなたたちが大変だったら、受け入れをやめてもいいから」と伝えましたが、それでも「やめない」と答えてくれたので、諦めずに続けることができました。

大変だったことはありますか

言いたいことが言える関係を築くこと

里母 里子が自分の意見や考えをあまり言わないことです。長男が里子に、「お母さんは何回かお願いしますと、意外とやってくれるよ。本当にしてほしいことがあったら、お願いしてみてください」と言ってくれたことで、最近は自分の考えを言うよう頑張ってくれています。言いたいことを言える関係であってほしいですが、自分の将来を描く基盤が弱く、なかなか自分からやりたいと言えないのだと思います。

長女 コロナ禍でリモート授業を受けている時に、里子の声が入ってしまうことがありました。

長男 年が離れているので、最初の頃は歩み寄る努力をしていました。

楽しかったことや良かったと思うことを教えてください

自分自身も成長でき、家族の仲も良くなった

里父 生きがいや、やりがいを感じることです。最初は暗く不安定だった里子も、一緒に過ごすうちに明るい笑顔が増えて、日常生活が安定していきます。成長が早く、1年でこんなに変わるものかと思うほどです。妻の子育て能力を改めて見ることもできました。

里母 長女・長男の良い面が新たに発見できました。2人とも受験もある中でいろいろ大変だったと思いますが、文句も言わず立派に向き合ってくれて、すごいなと感心しました。

長男 年下の里子が来て、自分自身も成長できることが多かったです。人が増えたことで会話の量も増えて、家族の仲が良くなりました。

今後、里子を新たに受け入れるとしたら、どうですか

長男 両親の意向に合わせようと思っています。

長女 私も同じ意見です。



養育家庭になる要件

- ・都内在住で心身ともに健康な夫婦である
※配偶者がいないかたはお問い合わせください
- ・適切な居室の広さがある
- ・経済的に安定している

養育家庭になった後

- ・児童相談所など関係機関が継続してサポート
- ・養育費(子どもの生活費など)を支給
- ・養育家庭同士の交流会や研修制度あり



東京都里親制度普及啓発キャラクター「さとぺん・ファミリー」

養育家庭について知りたい、相談したいかたは

品川児童相談所フォスティング機関(里親養育包括支援機関) 六踏園 ☎3474-5442)にお問い合わせください。



東京都品川児童相談所フォスティング機関六踏園

養育家庭体験発表会(コード①)

時10月26日(土) 14:00~16:00

場総合庁舎本館1階E会議室

内養育家庭の体験談、制度の紹介、個別相談。
希望者は当日会場へ



養育家庭(里親)・子ども虐待防止パネル展

時11月25日(月) 14:00~11月29日(金) 16:00

場総合庁舎本館1階西口ロビー



目黒区からの情報を発信中!



めぐろ区報
電子書籍版
(※)



区
ウェブ
サイト



区公式YouTube
チャンネル
めぐろTV



区公式X
(IBTwitter)



区LINE
公式



※めぐろ区報電子書籍版は、多言語でご覧になれます。Meguro City Newsletter e-book version is available in multiple languages.